

地域の営農

主要作物

水稻



小麦



水稻を中心に、水田の畑利用による小麦、大豆、野菜等を組み合わせた複合経営が展開されている。

畑については野菜類、いも類、豆類の輪作体系の確立など、農業経営の安定化を図っている。

大豆



ねぎ



区画整理



集出荷施設



生産基盤

関連事業による区画整理等により生産基盤が整備され、生産性の向上が図られている。

新たな農業の展開

地域ブランド米（ちばエコ農産物）

「ちばエコ農業」は、土づくりなどを通じて化学合成農薬と化学肥料を通常の半分に減らして栽培するもので、顔の見える安心・安全な農産物として約100品目の作目で取り組まれている。

その中でも水稻は取り組み面積の51%を占めており、生産されたお米は「ちばエコ農産物」の認証を受け、県内外で販売されている。

地域用水機能

「歴史をつなぐ」農業用水は、潤いをもたらす地域用水として大切にされ、広く地域から親しまれている。

整備された農村公園



多面的機能の維持・発揮 （旧農地・水・環境保全向上対策）

事業によるハード整備のみならず、農村資源の良好な保全や環境の向上を図るための協同活動が積極的に取り組まれている。

生きもの調査



小学生による体験農業



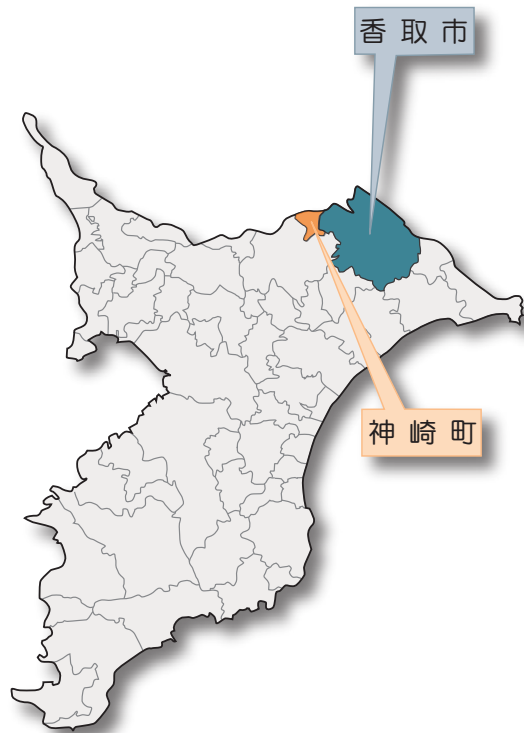
協同活動



関係市町村の紹介



香取神宮



酒蔵まつり

香取市

日本の原風景を感じさせる田園・里山や、利根川周辺の自然景観をはじめ、東国三社の一つ「香取神宮」や、江戸時代の面影を色濃く残した街並みなど、自然・歴史・文化に彩られたまちです。

【市章】		【まちづくりの指標】	
		▽水や緑を大切にし、美しいまち ▽地域の歴史を大切にし、文化の香り高いまち ▽きまりを守り、平和で安心なまち ▽ともに学び、ともに働き、活気あふれるまち ▽お互いに助けあい、笑顔で暮らせるまち	
面積		262.31 km ²	
人口(平成 26 年 10 月 1 日現在)		81,267 人	
世帯数(平成 26 年 10 月 1 日現在)		30,327 世帯	
市の木	サクラ	市の花	アヤメ
			

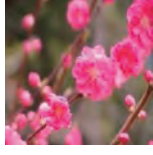
神崎町

神崎町は、利根川に接し、古くから稲作と酒造りが盛んな町で毎年3月に行われる「発酵の里こうざき 酒蔵まつり」は、たくさんの人でにぎわいます。

【町章】		【まちづくりの指標】	
		▽自然を愛し住みよいまち ▽知性と文化の豊かなまち ▽思いやりのある温かいまち ▽スポーツに親しみ楽しいまち ▽きまりを守り明るいまち	
面積		19.85 km ²	
人口(平成 26 年 10 月 1 日現在)		6,418 人	
世帯数(平成 26 年 10 月 1 日現在)		2,378 世帯	
町の木	樟(くす)の木	町の花	バラ
			

成田市

日本と世界を結ぶ成田国際空港や年間約1千万人以上の参詣客が訪れる成田山新勝寺など、一年を通じて多くの人で賑わう「運氣上昇のまち」成田。ペニアズマ(さつまいも)の生産量は全国トップクラス。

【市章】		【まちづくりの指標】	
		▽親切な心で、平和な成田 ▽よろこんで働き、豊かな成田 ▽きまりをまもり、住みよい成田 ▽自然と文化を大切にし、美しい成田 ▽若い力をそだて、明るい成田	
面積		213.84 km ²	
人口(平成 26 年 10 月 1 日現在)		131,594 人	
世帯数(平成 26 年 10 月 1 日現在)		58,013 世帯	
市の木	梅	市の花	あじさい
			

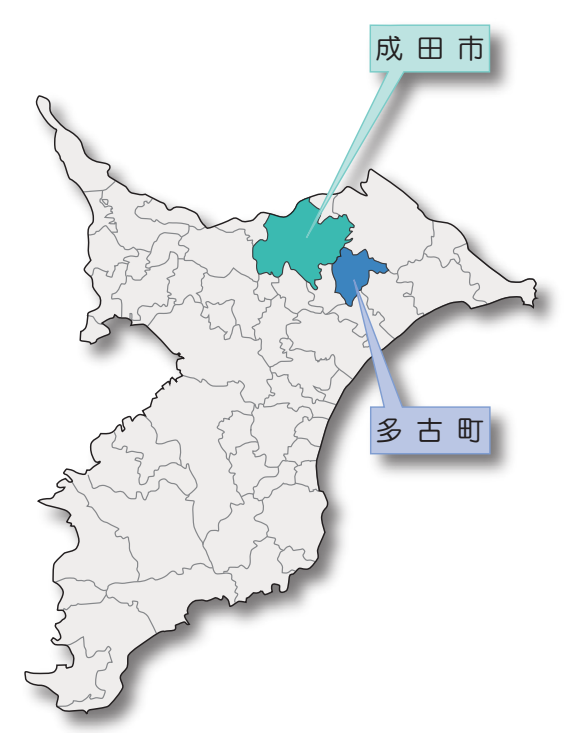
多古町

食味日本一に輝く「多古米」ブランドで有名である。縄文時代の丸木舟が発見されて話題になった。日本寺は、仏教史上有名な日蓮宗の檀林として知られ、あじさいの美しい寺としても有名である。

【町章】		【まちづくりの指標】	
		▽自然に親しみ、心のなごむ美しいまち ▽歴史を大切にし、ふる里をはぐくむまち ▽文化やスポーツを楽しみ、共に高めあうまち ▽産業を盛んにし、喜んで働ける活力のあるまち ▽共に助け合い、いきがいとやすらぎのあるまち	
面積		72.68 km ²	
人口(平成 26 年 10 月 1 日現在)		15,478 人	
世帯数(平成 26 年 10 月 1 日現在)		5,733 世帯	
町の木	さざんか	町の花	あじさい
			



成田山新勝寺



檀林の寺「日本寺」



飯高寺



匝瑳市

横芝光町



栗山川

匝瑳市

匝瑳市は日本有数の植木の産地として知られており、この地にある飯高寺は法華宗（日蓮宗）の学問所跡である。うっそうとした杉林が歴史の重みを感じさせる。

【市章】		【まちづくりの指標】	
		▽笑顔とあいさつの輪が広がるまち ▽美しい自然を大切にするまち ▽奉仕の心と思いやりのあるまち ▽教養と文化を高め、伝統を守るまち ▽元気で働き、活気に満ちたまち	
面積		101.78km ²	
人口(平成26年10月1日現在)		38,857人	
世帯数(平成26年10月1日現在)		14,441世帯	
市の木	イヌマキ	市の花	チューリップ
			

横芝光町

測量家・伊能忠敬や幕末の大儒学者・海保漁村（かいぼぎょそん）を生んだ地域である。栗山川は、町の中心を流れる川で、古くから農業用水として利用されており、稲作が盛んな町である。

【町章】		【まちづくりの指標】	
		▽健康で笑顔が輝くまち ▽豊かな心を育む教育・文化のかおるまち ▽環境と調和した快適で安全なまち ▽地域の特性を活かした産業のまち ▽互いの理解とふれあいに満ちたまち	
面積		66.91km ²	
人口(平成26年10月1日現在)		25,153人	
世帯数(平成26年10月1日現在)		9,555世帯	
町の木	梅	町の花	さくら
			

山武市

県内でも有数な苧の産地として有名で、苧狩りや海水浴を楽しむことができ多くの観光客が訪れる。懸崖造りの「浪切不動院」の赤い本堂は、市内でも数少ない江戸時代初期の建造物である。

【市章】		【まちづくりの指標】	
		▽暮らしを支える快適なまち ▽住みやすい環境と安全なまち ▽にぎわい豊かな暮らしを創出するまち ▽だれもが生きがいを持って安心して暮らせるまち ▽生涯を通じて人と人がふれあい共に学びあえるまち ▽市民と行政が協働してつくるまち	
面積		146.38km ²	
人口(平成26年10月1日現在)		55,073人	
世帯数(平成26年10月1日現在)		22,000世帯	
市の木	杉	市の花	野菊
			

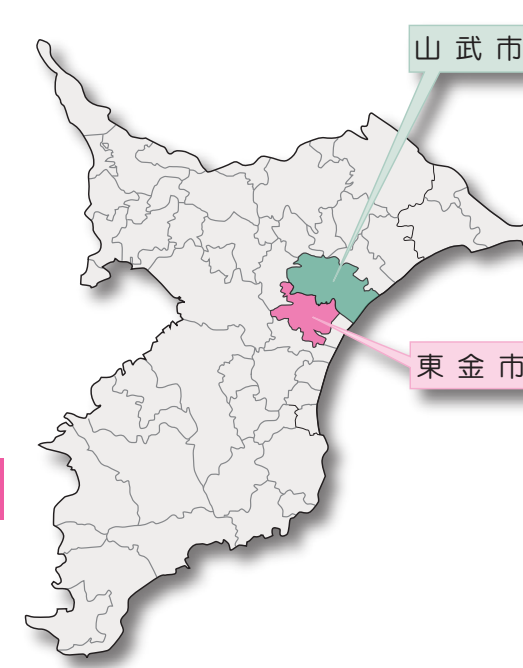
東金市

江戸時代にタカ狩りなど徳川家康が通った地域で、歴史は古く、両総用水の実現に向けても中心的な役割を果たした。八鶴湖では、毎年4月上旬に「東金桜まつり」が開催され、大勢の花見客で賑わう。

市章		【まちづくりの指標】	
		▽郷土を愛し、環境をととのえ、住みよいまち ▽互いにいたわり、笑顔を忘れず、心ふれあうまち ▽からだをきたえ、誇りをもって働き、豊かなまち ▽きまりを守り、力をあわせて、明るいまち ▽歴史を尊び、教養を深め、香り高い文化のまち	
面積		89.34km ²	
人口(平成26年10月1日現在)		60,790人	
世帯数(平成26年10月1日現在)		26,033世帯	
市の木	ラカンマキ	市の花	ソメイヨシノ
			



浪切不動院



山武市

東金市



八鶴湖



地引網



小中池

九十九里町

イワシの地引網であまりにも有名（現在は体験型観光のみ）で、海水浴やサーフィンでも知られた観光地である。

【町章】		【まちづくりの指標】	
		▽ふるさとを愛し、環境をととのえて美しいまち ▽教養を高め、心豊かで、香り高い文化のまち ▽勤労を尊び、活力にみちた、働きがいのある快適なまち ▽からだをきたえ、笑顔のあふれた明るいまち ▽老人にいきがいを、若者には夢のあるしあわせなまち	
面積		23.72 km ²	
人口(平成 26 年 10 月 1 日現在)		17,447 人	
世帯数(平成 26 年 10 月 1 日現在)		7,234 世帯	
町の木	松（クロマツ）	町の花	月見草（オオマツヨイグサ）

大網白里市

市内には両総用水の生みの親・十枝雄三翁が残した「十枝の森」や、農林水産省のため池百選に選定された小中池があり、周囲は「小中池公園」として整備され、住民の憩いの場となっている。

【市章】		【まちづくりの指標】	
		▽自然を大切にし、健康で安全なまち ▽ほこりをもって働き、豊かな、ゆとりあるまち ▽ふるさとを愛し、香り高い文化のまち ▽老人に安らぎを、若者には夢のあるまち ▽笑顔で助けあい、心のふれあうまち	
面積		58.06 km ²	
人口(平成 26 年 10 月 1 日現在)		50,714 人	
世帯数(平成 26 年 10 月 1 日現在)		20,677 世帯	
市の木	モクセイ	市の花	コスモス

白子町

県内随一のたまねぎの生産量と全国でも珍しい葉たまねぎ日本一の生産地。全国有数のテニスリゾート地であり、温泉地（美肌の湯）としても有名である。

【町章】		【まちづくりの指標】	
		▽笑顔でたがいに助けあいやすらぎのある明るいまち ▽創意をもって仕事に励みゆとりある豊かなまち ▽自然を大切に清潔で安全な住みよいまち ▽子どもたちの夢を育て教養と文化の香り高いまち ▽スポーツを楽しみ心身ともに健康で活力あるまち	
面積		27.46 km ²	
人口(平成 26 年 10 月 1 日現在)		12,086 人	
世帯数(平成 26 年 10 月 1 日現在)		4,868 世帯	
町の木	黒松	町の花	ひまわり

茂原市

日本さくら名所 100 選にも選ばれた茂原公園の「桜まつり」や、関東屈指の祭典である「茂原七夕まつり」で有名である。

【市章】		【まちづくりの指標】	
		▽清潔で文化的な明るいまち ▽老人を敬い子どもの幸せを守る温かいまち ▽スポーツを楽しみ健康で活気のあるまち ▽仕事に励み創意と努力をもって豊かなまち ▽きまりを守り住みよいまち	
面積		100.01 km ²	
人口(平成 26 年 10 月 1 日現在)		91,972 人	
世帯数(平成 26 年 10 月 1 日現在)		39,089 世帯	
市の木	つつじ	市の花	コスモス



たまねぎ祭り



茂原公園の「桜まつり」

ようこそ！両総用水資料室へ（第2揚水機場）

「満州にも見ない荒野を日本一の沃野へ」（両総用水物語）

第1部 六千年におよぶ歴史的宿命

第2部 六千年の歴史的矛盾に挑む

第3部 両総用水の完成と千葉の変貌

第4部 次世代社会の礎

両総用水資料室では、児童・小学生、地元の農家、事業関係者、教育関係者等に、九十九里平野（上総）と利根川下流（下総）の地形がもたらした農業の長い苦難の歴史、およびそれを克服した両総地域の事業の経緯等を写真、パネル等により展示し、事業の目的や事業が地域に果たした役割等について、4部構成により物語風に紹介しています。

1階の階段吹き抜けスペースにて両総地区の地形的特徴、およびそれと闘ってきた農業の歴史等を紹介し、2階の資料室にて事業の記録、事業の概要、両総地域の変貌等を映像やパネル等により紹介しています。

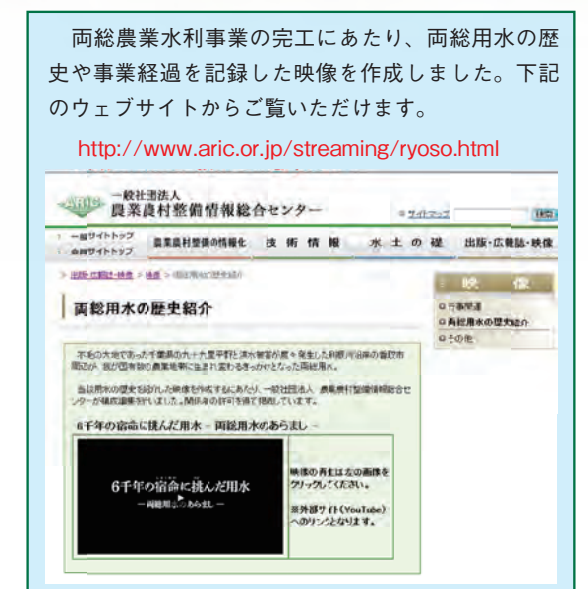
資料室のご案内

- 所在地 〒289-1746
千葉県山武郡横芝光町寺方 515-1
第2揚水機場
- アクセス 銚子連絡道路「横芝光 IC」から車で約10分
総武本線「横芝駅」から車で約10分
- 問い合わせ 〒283-0005
千葉県東金市田間 2297-1
千葉県山武農業事務所 両総用水管理課
Tel 0475-52-4186

〒283-0802
千葉県東金市東金 1163
両総土地改良区
Tel 0475-52-3145



（その他の銘盤の写真は、両総用水資料室のパソコンでご覧いただけます。）



長生村

関係市町村中、唯一の村で、人口は長生郡（一宮町、睦沢町、白子町、長柄町、長南町）の中で一番多い。「長生トマト」などのブランド化に成功している。

【村章】		【むらづくりの指標】	
		▽たがいに助けあい、心豊かな村 ▽きまりを守り、平和で住みよい村 ▽仕事に励み家庭を大切に、明るく暮らしよい村 ▽スポーツを楽しみ、健康で活気のある村 ▽自然を愛し教養を高め、文化のかおり高い村	
面積		28.32 km ²	
人口（平成26年10月1日現在）		14,752 人	
世帯数（平成26年10月1日現在）		5,723 世帯	
村の木	ラカンマキ	村の花	ハマヒルガオ

一宮町

この地にある玉前神社が上総国の第一の宮であったことが名前の由来である。九十九里浜南端に位置し、日本有数のサーフィンポイントとして知られている。農業では施設野菜や梨の産地である。

【町章】		【まちづくりの指標】	
		▽心身を鍛え、スポーツに親しみ、健康で明るい町 ▽自然を愛し、花や緑を育て、きれいな町 ▽歴史や文化を大切にし、平和で豊かな町 ▽思いやりの心を育て、助け合いの町 ▽青少年を健全に育て、産業を振興し、活力のある町	
面積		23.02 km ²	
人口（平成26年10月1日現在）		12,483 人	
世帯数（平成26年10月1日現在）		5,045 世帯	
町の木	くろまつ	町の花	やまゆり



長生トマト



玉前神社

事業のあゆみ



昭和 21 年 6 月 6 日
天皇陛下視察行幸



十枝雄三 氏



坂本斉一 氏



能勢剛 氏

1933	昭和 8 年	両総一帯大干ばつに見舞われる
1934	昭和 9 年	両総一帯大干ばつに見舞われる 松潟堰に着手（千葉県）
1937	昭和 12 年	松潟堰完成
1940	昭和 15 年	両総一帯大干ばつに見舞われる
1941	昭和 16 年	関係 4 郡の 51 町村長の援助のもと両総用水期成同盟連合会を結成
1942	昭和 17 年	井野農林大臣視察
1943	昭和 18 年	国会承認となり農地開発営団事業として採択
1944	昭和 19 年	両総 4 郡にわたる関係農家が結束して両総普通水利組合を結成
1945	昭和 20 年	戦争とインフレのため工事中止、終戦直後も資金難・資材難で工事は一時中止される
1946	昭和 21 年	天皇陛下行幸 佐原町水郷大橋畔で事業に関して御下問される 両総用水事業、公共工事として認証される
1947	昭和 22 年	農林省の直轄事業となるも予算等の制約があり、苦難の連続であった
1948	昭和 23 年	芦田首相、永江農林大臣視察
1949	昭和 24 年	佐原の第二排水機場竣工式
1950	昭和 25 年	アメリカ対日援助見返資金より 5 億円確保、年間予算額 6 億 5 千万円となる 第一排水機場竣工式 第一揚水機場起工式
1951	昭和 26 年	千葉県両総支線事務所を東金に設置、全地区内の現地調査を実施 用水 15 支線、排水 2 支線の総延長 143.824km、総事業費 14 億 1,100 万円の計画 をまとめ国に提出
1952	昭和 27 年	水利組合を組織変更して両総土地改良区を設立（初代理事長：能勢剛） 利根・栗山分水界の難関の第 20 号隧道（佐原市矢作～福田地先）圧気工法にて貫通、北 部幹線工事ほぼ完成
1953	昭和 28 年	両総営営支線起工式 国営事業所東金に移転
1954	昭和 29 年	土地改良新聞にて両総幹線工事座談会 貝原工事課長が試験通水の際に殉職
1955	昭和 30 年	第二導水路、第二揚水機場、ポンプ 2 台を残して完成
1957	昭和 32 年	東金までの幹線の通水試験 「広報両総」が創刊 中国農業技術視察団視察 朝日新聞団野記者が社説で幹支線進捗のアンバランスを指摘
1958	昭和 33 年	利根川の異常渇水で水田 8,000ha に塩害発生、両総用水から大利根用水へ応急通水、 この塩害問題から利根川河口堰の建設へと発展（昭和 40 年 11 月着工） 三浦農林大臣視察
1959	昭和 34 年	福田農林大臣視察 茂原に支所を設置 第三導水路工に着手
1960	昭和 35 年	南篠農林大臣視察 県営予算 8,000 万円から 3 億円に増額、県営工事本格化する
1961	昭和 36 年	第三揚水機場完成
1962	昭和 37 年	茂原までの幹線通水試験及び式典 西部幹線水路に着手
1963	昭和 38 年	『両総土地改良区史』編纂特別委員会 国営幹線、ほとんど全工事を完成
1964	昭和 39 年	制水門（チェックゲート）の新設・補修工事
1965	昭和 40 年	国営幹線完成、国営事業竣工式 利根川河口堰着工（昭和 45 年竣工） 国営事業で造成された土地改良施設の維持管理が千葉県に委託される 「両総土地改良区史」上巻を発行
1966	昭和 41 年	国営負担金支払開始（年額 1 億 3,000 万円、10 ケ年） 千葉県は東金に両総土地改良事務所を設置、県営支線工事施行事務を担当
1971	昭和 46 年	水資源開発公団との幹線水路の共用協定が成立

1973	昭和 48 年	県営支線事業の完了（用水路 15 支線、延長 155km） 両総用水管理事務所設置（両総土地改良事務所を組織変更）
1975	昭和 50 年	土地改良区本部事務所を東金に新設
1977	昭和 52 年	水道用水（房総導水路建設事業）との共同利用開始（工業用水は昭和 61 年から） 両総用水第 1 揚水機場管理所完成（土地改良区佐原出張所跡）
1978	昭和 53 年	老朽化した第 2 揚水機場の基礎及び南部幹線用水路約 2km の補強工事を対象とした国営造 成土地改良施設整備事業を開始
1980	昭和 55 年	国営造成土地改良施設整備事業が完了 総事業費 4 億 1,697 万円 受 益 地 松尾町から一宮町にわたる 12,777ha
1981	昭和 56 年	『両総土地改良区史』中巻を発行
1984	昭和 59 年	国営両総土地改良事業直轄調査開始
1985	昭和 60 年	『両総土地改良区史』中巻の二を発行
1986	昭和 61 年	千葉県が両総用水管理事務所に調査課を新設し、見直し事業に向かって体制固めを図る
1987	昭和 62 年	千葉県東方沖地震 （開渠・トンネル亀裂、完全断水及び間断断水 19 ～ 45 日間）
1990	平成 2 年	千葉県中部沖地震（トンネル亀裂、夜間断水 56 日間） 国営両総土地改良事業全体実施設計着手 『両総土地改良区史』下巻を発行
1991	平成 3 年	「両総用水事業推進協議会」が発足
1993	平成 5 年	地元説明会、通常総代会の議決を経て施設更新事業の施行申請 緊急的に更新が必要な第 2 揚水機場、第 1 導水路、北部・南部幹線用水路、第 1 排水機場 を対象とした国営両総土地改良事業（施設更新事業）に着工 南部幹線用水路工事に着手
1994	平成 6 年	第 2 揚水機場工事、北部幹線用水路工事に着手
1997	平成 9 年	臨時総会において国営両総土地改良事業変更計画概要が承認される
1998	平成 10 年	国営両総土地改良事業（施設更新事業）で整備した第 2 揚水機場の供用開始 施設全体の更新及び用排水改良を行うための国営両総土地改良事業変更計画が確定
2000	平成 12 年	第 1 揚水機場工事、大須賀川排水路工事に着手
2001	平成 13 年	東部幹線用水路工事に着手
2002	平成 14 年	利根川両総水門工事、第 1 導水路工事に着手 第 1 排水機場工事、八間川排水路工事に着手
2004	平成 16 年	第 1 揚水機場完成 第 3 揚水機場工事に着手
2005	平成 17 年	利根川両総水門完成 松潟堰工事、大須賀支線用水路工事に着手
2006	平成 18 年	東部幹線用水路、第 1 排水機場完成 東金東支線、福岡東支線用水路工事に着手
2007	平成 19 年	第 3 揚水機場、八間川排水路完成 山武東部支線機場、山武東部支線、南郷支線、松潟支線用水路工事に着手
2008	平成 20 年	松潟堰完成
2009	平成 21 年	調整池工事に着手
2010	平成 22 年	管理受託者を千葉県から千葉県と両総土地改良区に変更
2011	平成 23 年	東日本大震災（3/11）に伴う緊急応急工事実施 4/15 に南部・東部幹線の応急対策が完了し通水を再開 津波の影響に伴う塩害地域では、除塩代掻きを繰り返し 5/12 までに作付け完了 栗山川統合機場、福岡南支線工事に着手
2012	平成 24 年	南部幹線用水路（国営施工区間）完成、調整池完成 南条支線用水路工事に着手
2013	平成 25 年	第 1 揚水機場特別高圧受電設備、栗山川統合機場完成 南条支線用水路、南郷支線用水路完成 大須賀川排水路完成 東部幹線の予防保全対策を実施
2014	平成 26 年	国営両総土地改良事業完了（10/28 国営両総農業水利事業完工式）



利根川両総水門



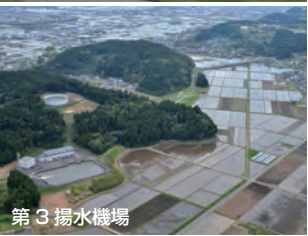
第 1 揚水機場



栗山川統合機場



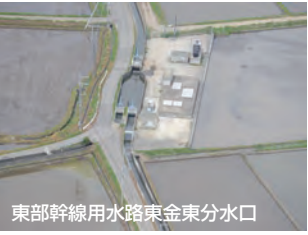
第 2 揚水機場



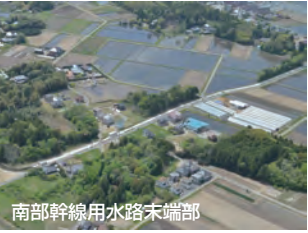
第 3 揚水機場



南部幹線用水路公平水路橋



東部幹線用水路東金東分水口



南部幹線用水路末端部

両総地区イラストマップ

